

巻頭言 創刊に当たって

令和 2 年 4 月に湘南鎌倉医療大学が開設され看護学部が発足したことを機に、研究会誌を発刊する準備を進め、ここに「湘南鎌倉医療ジャーナル」第一巻を発刊出来たことを心からうれしく思います。

大学の教員の職務は学生を教育することは勿論のこと研究も重要な職務であり研究実績も問われていきます。看護学の学問としての歴史はまだ浅く、研究についても同様です。長い研究の歴史を持つ他分野を参考にしつつ看護学のエビデンスを築くための「知」を生み出す研究をどのように展開していくかを考え、その研究が自己満足的なものでなく人々の QOL の向上に役立つのか等を検討していく事が重要です。

本ジャーナルでは本学の教員の研究だけではなく、徳洲会グループの多様な分野の方々の特徴ある研究成果の発表の場として、また他分野の方々の研究手法、研究内容を知り共同研究につながる糸口となることや研究経過を経て得られた貴重な知見を知る等々、看護学部の教員が研究に前向きに積極的に取り組むためのツールとして活用して戴ければ幸いです。次年度からは大学院博士前期課程・博士後期課程の開学に伴い研究を本格的に推進する体制が整いますので本誌の活用場面も増えるのではないかと期待しています。

伝統は革新の連続であるという言葉の通り、新しい研究を進めながら湘南鎌倉医療大学の歴史を未来へつなぎつつ、近い将来に学会誌へと発展させていくことをめざし本ジャーナルの充実が図られていくことを願っています。

最後に本誌の発刊に尽力していただいた図書館長、図書委員の方々、様々な場面でお力添えをいただいた関係各位に感謝いたします。

湘南鎌倉医療大学 学長
荒賀直子